



鉄道友の会 選定 2025 年 島秀雄記念優秀著作賞決定

■単行本部門（4 件）

- ・若林宣『女子鉄道員と日本近代』青弓社（2023）
- ・奥山道紀『夕張鉄道』路線・沿革編／車両編、ネコ・パブリッシング（2024）
- ・古庭維（文）、Croter（絵）、栗原景（監修）、倉本知明（訳）『台湾鉄道』白水社（2024）
- ・江上英樹・栗原景『スイッチバック大全』誠文堂新光社（2024）

■定期刊行物部門（2 件）

- ・宮田寛之「“ドコービル系機関車”と東洋活性白土 1 号機」『レイル』No. 129、エリエイ（2024. 1）
- ・西脇浩二「キハ 91 形、キハ 181 系、キハ 65 形の現車調査記録から」『鉄道ピクトリアル』No. 1032、電気車研究会（2024. 12）

■特別部門（1 件）

- ・高橋卓郎「1 号機〈活白ドコー〉動態復元の記録 1999～2023 年」『レイル』No. 129、エリエイ（2024）および羅須地人鉄道協会による同機関車の復元

鉄道友の会（会長・佐伯洋、会員約 3000 名）は、島秀雄記念優秀著作賞選考委員会（選考委員長・小野田滋）による選考のもと、2025 年島秀雄記念優秀著作賞として、上記の単行本部門 4 件、定期刊行物部門 2 件、特別部門 1 件の合計 7 件を選定することに決定いたしました。

賞の趣旨、選定対象の解説、選定理由などについては、別紙をご覧ください。

島秀雄記念優秀著作賞とは

島秀雄記念優秀著作賞は、毎年 1 回、鉄道分野に関する優れた著作物または著作物に関わる功績を選定し、鉄道および鉄道文化の発展に寄与することを目的として、2008 年に設置された賞です（今回は第 18 回目となります）。

賞の名称は、鉄道友の会初代会長であり、国鉄の技術者として東海道新幹線の実現に貢献した島秀雄（1901～1998）に由来するもので、その功績を永久に記念するとともに後進にとっての励みとするため、その名前を冠しています。

2025 年 島秀雄記念優秀著作賞選定対象の解説・選定理由

■単行本部門（4 件）

・若林宣『女子鉄道員と日本近代』青弓社（2023）

本書は、当時の新聞資料や文献にあたりながら女性鉄道員の存在を明らかにしており、これまでほとんど注目されていなかった女性踏切番の存在や、当時の女性従業員に期待された役割とその評価、社会との関わりなどを具体的に掘り下げています。冒頭部分では女性踏切番、平山つねの事故死という出来事に着目し、もしかすると日本最初期の女性鉄道員ではとの可能性から、背景にある問題を時代に照らし考察する展開が見事です。さらに女性出札係や女性車掌への社会的（主に男性による）差別の問題、海外での女性鉄道員の事柄など、あらゆる文献や資料を駆使してまとめ上げ、資料的な価値も高く評価できます。今後、女性が社会生活を営むなかで、働く現場の選択肢に鉄道があることを、女性側からいきいきと語られることが増えることを願い受賞作に選定しました。

・奥山道紀『夕張鉄道』路線・沿革編／車両編、ネコ・パブリッシング（2024）

夕張本町と函館本線野幌を結ぶ夕張鉄道は、3 つの国鉄接続駅を持ち 53.2km という営業キロを有する北海道私鉄の雄ともいえる存在でした。運炭用の蒸気機関車の他、気動車も多数揃え旅客サービスにも力を入れていました。しかし鉄道事業廃止への過程が急激であり、とくに末期 5 年ほどの車両推移や運行の変遷が、ブームのさなかであった蒸気機関車関係以外は、意外なくらいまとめられていなかった私鉄でした。本著では夕張鉄道について、駅の変遷、輸送状況の推移、車両の変遷なども調べ上げ、とくに、知名度が高い割に総合的な研究が少なかった当鉄道の全盛期から消滅までを豊富な写真とともに紹介しました。夕張鉄道に関する代表的な著作であるとともに、北海道の鉄道に関する著作の多い筆者においても本著は代表作のひとつになると思われ、受賞作に選定しました。

・古庭維(文)、Croter(絵)、栗原景(監修)、倉本知明(訳)『台湾鉄道』白水社（2024）

歴史的な経緯において日本とも関係の深い台湾の鉄道について、博物館の説明パネルのようにイラストと説明文により要領よくかつ正確にビジュアル面で見やすく構成されており、台湾の鉄道を視覚的・総論的に把握できる良書といえます。特に平易な構成による文章とディテールを詰め込みすぎないイラストによる構成は、宮脇俊三・黒岩保美両氏による『青函連絡船ものがたり』や『御殿場線ものがたり』にも通ずる品の良さが感じられます。子どもにとってはイラストを眺めるだけでも楽しく読め、中学生以上にとっては解説文と併せて鉄道の歴史を通じて台湾の近現代史を理解することができる点を評価しました。さらに、台湾国立鉄道博物館がオープンするタイミングで日本において翻訳本が発行され、幅広い世代の日本の鉄道趣味者が台湾の鉄道に関し理解を深めることができることとなっ

た意義は極めて大きいと考えられることから、受賞作に選定しました。

・江上英樹・栗原景『スイッチバック大全』誠文堂新光社（2024）

本書は、すでに廃止されたものも含めて全国に分布する約 140 カ所のスイッチバック方式の停車場を取り上げて体系的に纏めたもので、国鉄・JR 線のみならず、民鉄や海外の事例などを網羅的に紹介した事例は、同類の既刊行著作を遥かに超えた大作と言えます。著者は当初から書籍化を意図してネットでコンテンツを蓄積しており、豊富な情報量の集大成として刊行した点も意欲的な取り組みといえます。スイッチバックの歴史や特徴について路線図・航空写真・実画像によりわかりやすく解説しているほか、既に廃止されて日が経つ箇所は現地調査などを加えて多面的に考察していることも評価できます。本書は、山岳線区や地形的事情により誕生したスイッチバックの歴史や特徴の理解を深めるものであるとともに、記録としても価値が高いことから、受賞作に選定しました。

■定期刊行物部門（2 件）

・宮田寛之「“ドコービル系機関車”と東洋活性白土 1 号機」『レイル』No.129、エリエイ（2024.1）

『レイル』誌の本記事掲載号は、内容のほとんどが東洋活性白土専用線の 1 号機となるドコービルタイプの蒸気機関車にまつわることに充てられており、その前半部分にあたるのが宮田寛之氏による日本のドコービル系蒸気機関車の考察です。フランスのドコービル社とは何かという基礎的な事柄から説き起こし、わが国ではオリジナル機が 2 両のみの輸入であったこと、それにもかかわらずコピー機が複数製造されたことなどを、機関車研究の先達の貴重な記録をひもとくことでわかり易くまとめ上げており、後世に残すべき資料性の高い記事となっています。特に、東洋活性白土 1 号機の実測による形式図は圧巻であり、本誌後半部分の鉄道保存団体「羅須地人鉄道協会」によるドコービル系機関車の動態復元記録への良いエントランスとなっています。土木工事の仮設鉄道向け機関車の話ですが、わが国の鉄道史の記録として後世に語り継ぐべきものとして受賞作に選定しました。

・西脇浩二「キハ 91 形、キハ 181 系、キハ 65 形の現車調査記録から」『鉄道ピクトリアル』No.1032、電気車研究会（2024.12）

本記事は国鉄・JR キハ 91 形・キハ 181 系・キハ 65 形を調査対象とし、室内外の製造銘板や検査標記およびアコモデーションについて現車調査の結果をまとめた労作です。現車調査は車両研究の基本ですが、量産化された系列では体系的に取り組んだ事例が少なく、標示内容の変化や誤記、JR 化以降の各社の違いや経時変化など、公式な資料では得られない情報を追求するとともに、趣味活動ならではの視点により写真や一覧表を用いて整理しています。定員、重量、換算などのペイント標記、室内外の銘板標記内容などの調査結果は、車両ごとに調査日時の時系列データとして作表されているため、読者自身で変化の様子を追うことが可能です。またアコモデーションの変更と銘板の記載年について、改造年度の対応付けしていることも特筆されます。現車の悉皆調査の重要性を再認識できる良い

記録であり、鉄道趣味界への貢献が極めて大きいと考えられ、受賞作に選定しました。

■特別部門（1件）

- ・高橋卓郎「1号機〈活白ドコー〉動態復元の記録 1999～2023年」『レイル』129号、エリエイ（2024）および羅須地人鉄道協会による同機関車の復元

本記事は鉄道保存団体「羅須地人鉄道協会」によるドコービル系機関車の動態復元を記録したもので、冒頭で糸魚川の化学メーカーが保有していたこの機関車が鉄道趣味人に知られるようになり、やがて同機が同協会に移譲されるまでの経緯を紹介しています。後半では、同協会が20有余年をかけて実現した動態復元の過程を詳細に記録し、趣味的活動ゆえの苦労や、老朽車両の復元のハードルの高さを実例でわかりやすく解説しています。蒸気機関車のレストアで高い壁となるボイラや弁、走り装置の復旧に腐心したこと、また極力オリジナルを追求した工夫などが目を引き、鉄道を愛する集団の情熱が伝わってきます。同協会は2023年で設立50周年を迎えましたが、趣味の一環として鉄道車両を動態保存することで得られた様々な知見や技術は後世にわたる有用な財産といえます。鉄道愛好者の裾野を広げる継続的な活動に敬意を表し、記事と活動を一括して特別賞に選定しました。

島秀雄記念優秀著作賞の詳細

島秀雄記念優秀著作賞の部門は、以下の通りです。

- 1) 単行本部門…… 書籍の中から優秀な作品を選定します
- 2) 定期刊行物部門……定期刊行物に掲載された著作物の中から優秀な作品を選定します。
- 3) 特別部門…… 単行本や定期刊行物以外の著作物で選考委員会が特に認めるもの、または著作物の企画、複製、展示、頒布、その他著作物に関わる功績を選定します。

授賞対象作品の候補は、過去3年間(今年は2022年1月1日から2024年12月31日まで)に発行された著作物(日付は、単行本、定期刊行物とも当該著作物に記載された年月日を基準)を対象としました。なお、著作者は、鉄道友の会会員に限りません。

選考にあたっては、鉄道友の会に島秀雄記念優秀著作賞選考委員会を組織しています。本年度の委員会は、鉄道関係の著作物に精通した鉄道友の会会員10名(委員長・小野田滋)で構成しました。2025年1月より4月30日まで候補作品の推薦を受け付け、単行本部門16作品、定期刊行物部門15作品が選考対象となりました。

これらのなかから単行本部門について授賞対象を選出するとともに、選考対象作品のなかから特別部門にふさわしい業績を選出しました。

島秀雄記念優秀著作賞 過去3年の受賞作品

第15回(2022年)選定

■単行本部門(3件)

- ・関田克孝『帝都電鉄』、ネコ・パブリッシング(2019)
- ・青森恒憲(著)・モデルワーゲン(編)『立山砂防軌道』こー企画(2021)
- ・今井啓輔『北海道の殖民軌道』レイルロード(2021)

■定期刊行物部門(3件)

- ・服部朗宏「私鉄のキハ17系概観」『鉄道ピクトリアル』電気車研究会、No.980～No.981(2020.12～2021.1)
- ・市原純編「証言・DD51 成田空港ジェット燃料輸送」『J-train』イカロス出版、No.81(2021.4)
- ・早川淳一「”トレインスポッター”の眼で記録した北海道の鉄道1981～2021」『鉄道ピクトリアル』電気車研究会、No.988(2021.8)

■特別部門(1件)

- ・『ホジ6014号蒸気動車のすべて』リニア・鉄道館(2021)の出版および関連する企画に対して

第16回(2023年)選定

■単行本部門(3件)

- ・坂中真之『小坂森林鉄道』(上・下)ブイツーソリューション(2019・2020)
- ・稲葉克彦『京成／新京成100・126形』(上・下)ネコ・パブリッシング(2022)
- ・中田安治『写真集 叡山電車100年のあゆみ』成山堂書店(2022)

■定期刊行物部門(1件)

- ・阿部貴幸「遊泉寺銅山専用鉄道とその車輛に関して」『鉄道史料』173号、鉄道史資料保存会(2022.7)

■特別部門(2件)

- ・京都市文化財保護課『こんにちは京都市電―「京都市電関係資料」をひもとく』(京都市文化財ボックス第35集)(2022)の刊行および関連企画
- ・鉄道博物館『鉄道の作った日本の旅150年』(2022)の刊行および関連企画

第17回(2024年)選定

■単行本部門(2件)

- ・藤田吾郎『70系戦災復旧客車―その形態バリエーション―』(上・中・下)ネコ・パブリッシング(2023)
- ・岡田健太郎『大陸浪人路面電車―中国大陆を駆けた日本の電車のものがたり―』日本鉄道研究団体連合会(2023)

■定期刊行物部門

- ・該当なし

■特別部門(2件)

- ・浅原信彦『ガイドブック 最盛期の国鉄車輛』1～16(ネコ・パブリッシング)
- ・芝浦工業大学附属中学高等学校「鉄道院403号(西武鉄道4号)機関車の保存」(『レイル』125号、エリエイ)および同機関車の保存活動

「鉄道友の会」のご紹介

「鉄道友の会」は、鉄道ファンが組織する全国規模の趣味団体です。1953（昭和28）年11月14日、「広く鉄道知識を普及し、鉄道趣味を通じて会員相互間の親睦を深め、併せて鉄道を愛護し、その進歩発展に寄与する」ことを目的として創立されましたが、以来70年が経過し、現在は正会員約2800名、賛助会員79団体を数え、全国に7研究会・19支部が設置されています。本会の概要は以下の通りです（2025年8月末現在）。

1. 本部役員

会長 佐伯 洋

副会長3名、専務理事1名、理事15名、監事2名

【歴代会長】	1953年～	島 秀雄	（元国鉄技師長）
	1956年～	天坊 裕彦	（元国鉄副総裁）
	1963年～	島 秀雄	（元国鉄技師長）
	1970年～	天坊 裕彦	（元国鉄副総裁）
	1981年～	八十島義之助	（元東大教授、元J R総研会長）
	1998年～	馬渡 一真	（元国鉄副総裁）
	2007年～	須田 寛	（元国鉄常務理事、元J R東海会長）
	2022年～	佐伯 洋	（元鉄道車輛工業会専務理事）

2. 研究会・支部

- ・研究会（7） 客車気動車、貨車、無線、車両記録、東急電車、小田急、西鉄
- ・支部（18） 北海道、青森、秋田、東北、山形、北関東、新潟、東京、静岡、長野、名古屋、北陸、福井、京都、阪神、東中国、中国、四国、九州

3. 会員数（2025年3月末日現在）

- ・個人会員 2,803名（入会資格：中学生以上ならば、どなたでも入会できます。）
- ・賛助会員 79団体（鉄道事業者、鉄道関連製造会社、出版社など）

4. 主要活動

・ブルーリボン賞・ローレル賞の選定

1958（昭和33）年以来、優秀と認めた新形式の鉄道車両を年1回選定しています。

・島秀雄記念優秀著作賞の選定

鉄道分野に関する優れた著作物または著作物に関わる功績を、年1回選定しています。

2008（平成20）年に新設しました。

・鉄道車両の文化財指定支援

文部科学省が進める鉄道車両の文化財指定について、積極的支援活動をしています。

・機関誌「RAILFAN」の発行（隔月・偶数月発行）

1954（昭和29）年創刊の会報誌で、2025年8月発行号で通巻813号を数えています。会員からの投稿を中心に、商業趣味誌では扱われにくい貴重な内容の記事も掲載しています。また、別冊「車両研究」、「保存車・廃車体一覧」の内容は、趣味界において高く評価されています。

・見学会、撮影会、試乗会、講演会などの随時開催

賛助会員をはじめとする各鉄道会社等のご協力により、車両・施設などの見学会、撮影会、新型車両の試乗会のほか、講演会、鉄道模型運転会など、各種行事を随時開催しています。

〒102-0074 東京都千代田区九段南4丁目5番12号 ABEビル9階

鉄 道 友 の 会（本部事務局）

（月～金：10～13・14～17時、土日祝：休）

Tel. & Fax. 03-5215-0305

URL <https://www.jrc.gr.jp/>